総合科学技術・イノベーション会議　第１６０回評価専門調査会

議事概要

日時：令和８年１０月１９日（月）１０：００～１１：００

場所：オンライン

出席者：宮園会長、伊藤議員、波多野議員、江崎委員、川原委員、染谷委員、
田中委員、長谷山委員、林委員、渡邉委員

欠席者：梶原議員、佐藤議員、菅議員、鈴木議員、大内委員、大隅委員

事務局：井上事務局長、木村統括官、田中参事官、藤原企画官、齊藤参事官補佐、
錦参事官、佐藤政策参与

議事：１．令和９年度事業に係る国家的に重要な研究開発について
２．福島国際研究教育機構の令和７年度業務実績に関する法人及び復興庁へのヒアリングについて
３．福島国際研究教育機構の令和７年度業務実績に関する主務大臣評価（案）に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見について

（配付資料）

資料１　令和９年度事業に係る国家的に重要な研究開発について

参考資料１　総合科学技術・イノベーション会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について

参考資料２　総合科学技術・イノベーション会議が実施する事前評価の調査検討等の進め方について

※評価専門調査会　構成員のみ

資料２　福島国際研究教育機構における各事業年度に係る研究開発等業務の実績等に関する評価及び次期中期目標の内容に対する意見・指摘事項の

考え方

資料３－１　福島国際研究教育機構（Ｆ－ＲＥＩ）令和７年度自己評価報告書の概要【福島国際研究教育機構提出資料】

資料３－２　令和７年度研究開発等業務の実績に係る自己評価報告書【福島国際研究教育機構提出資料】

資料３－３　「ＵＲＡなどの研究開発マネジメント人材や技術職員の確保・配置の状況（今後の見通し含む）」及び「整備する研究機器（研究基盤整備）の状況について」【福島国際研究教育機構提出資料】

資料４－１　福島国際研究教育機構（令和７年度実績）の主務大臣評価について【復興庁提出資料】

資料４－２　福島国際研究教育機構の主務大臣評価（令和７年度）（案）【復興庁提出資料】

資料４－３　福島国際研究教育機構の評価実施方針【復興庁提出資料】

参考資料３　福島国際研究教育機構の令和６年度業務実績に関する主務大臣評価（案）に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見（答申）

議事概要：

【藤原企画官】　事務局の藤原でございます。本日はお忙しい中、御参集賜りまして、ありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから「第１６０回評価専門調査会」を開催いたします。

本日の出欠状況を確認いたします。本日の出席は現在１０名、欠席は６名。欠席の構成員は梶原議員、佐藤議員、菅議員、鈴木議員、大内委員、大隅委員でございます。以上から評価専門調査会運営規則第４条の開催要件である過半数の出席がありますことを報告いたします。

続けて、ウェブ会議による開催上の留意事項を御説明いたします。本日の会合の傍聴者につきましては、音声と画面投影による傍聴とさせていただい

ております。なお、事前に資料をお送りしている方におかれましては、必要に応じてダウンロードの上、お手元で御確認をお願いいたします。

次に、構成員におかれましてはハウリングや雑音混入防止のため、発言時以外はマイクをミュートにして映像もオフにしていただきますようお願いいたします。

発言を希望される際は、挙手ボタンを押していただき、会長の指名を受けてから発言をお願いいたします。発言する際はマイクと映像をオンにして御発言ください。発言が終わりましたら、いずれもオフに戻してください。

接続に不具合がある場合は速やかに再接続をお願いいたします。その他、チャット機能で随時全員宛てに御連絡いただければ対応させていただきます。注意事項は以上となります。

続きまして、配付資料を確認いたします。資料１、参考資料１及び参考資料２は公開資料としております。

続きまして、構成員のみへの配付資料が資料２から資料４－３まで、参考資料３です。

資料の不足などがございましたら、事務局までお知らせください。

それでは宮園会長、以降の議事をお願いいたします。

【宮園会長】　どうもありがとうございました。

本日はお忙しい中、御出席くださいましてありがとうございます。

評価専門調査会会長の宮園です。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

議事次第にお示ししているとおり、一つ目の議題は「令和９年度事業に係る国家的に重要な研究開発について」、二つ目の議題は「福島国際研究教育機構の令和７年度業務実績に関する法人及び復興庁へのヒアリングについて」、三つ目の議題は「福島国際研究教育機構の令和７年度業務実績に関する主務大臣評価（案）に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見について」となっております。なお、以後、福島国際研究教育機構は「Ｆ－ＲＥＩ（エフレイ）」と呼ばせていただきますので、よろしくお願いいたします。

議題の取扱いですが、一つ目は公開としており、二つ目及び三つ目の議題は特殊法人の評価に関わる内容が含まれており、公表された場合には自由な議論を困難にするとともに、当該法人の権利・名誉を損なうおそれもあることから、当該議題については非公開とさせていただきます。Ｆ-ＲＥＩについては、本日、ヒアリングを実施した上でＣＳＴＩの意見（案）の取りまとめを行います。

それでは、議題（１）に入りたいと思います。「令和９年度事業に係る国家的に重要な研究開発について」です。事務局より、まず説明をお願いいたします。

【藤原企画官】　事務局です。資料１を御覧ください。

最初に「１．概要」です。参考資料１「総合科学技術・イノベーション会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について」に基づき、新たに実施が予定される国費総額が約３００億円以上の研究開発のうち、科学技術政策上の重要性等に鑑み、評価専門調査会において評価すべきと認めたものについて調査検討を行うとしているものです。

今般、各府省に対して、令和９年度予算要求に係る新規研究開発案件の調査を行いました。これらを評価しようというものです。

続きまして「２．評価対象案件の選定」を御覧ください。

「（１）対象となる研究開発案件の選定方法」です。新規研究開発案件の全体像を把握するために、平成２９年度の評価専門調査会でお決めいただいたとおり「国費総額２００億円以上」又は「予算概算要求額２０億円以上」の研究開発案件を対象に調査をし、その結果を踏まえて総額約３００億円以上の大規模研究開発案件のうち、科学技術政策上の重要性等に鑑み、評価専門調査会において評価すべきものを選定することとしております。

「（２）各府省に対する調査の結果」です。下の表にあるとおり１９件が調査要件に該当し、そのうち、右から二つ目の欄に丸がついているものが、国費総額が３００億円を上回る見込みです。

「（３）まとめ」を御覧ください。これら国費総額が３００億円を上回ると見込まれる１０件のうち、評価専門調査会において評価すべき案件とし

て、国家戦略技術領域の考え方、予算規模、それから評価疲れを回避するといった観点を踏まえ、総務省の「量子ネットワークの要素技術検証」、文部科学省の「ＡＩ　ｆｏｒ　Ｓｃｉｅｎｃｅを支える次世代研究インフラの構築」、厚生労働省の「自律型ＡＩ創薬実証事業」、経済産業省の「ＡＩロボティクス戦略事業」の４件とし、大規模研究開発評価ワーキンググループにおいて評価を実施することとさせていただきたく存じます。

「３．評価の視点」を御覧ください。参考資料２「総合科学技術・イノベーション会議が実施する事前評価の調査検討等の進め方について」を踏まえ、こちらの（１）～（４）の視点に加えて、先行する関連した研究開発の実施状況や、日本成長戦略等の関連する政府方針を参照した上で評価を実施することとさせていただきたいと存じます。

事務局からの説明は以上です。

【宮園会長】　どうもありがとうございました。

ただいま説明があった内容について御質問、御意見等がありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

【渡邉委員】　今回選定された候補案件を見てみると、いわゆる攻めの研究開発と捉えてよいのではないかと思っています。このような分野は世界的な競争力を維持確保するという意味では十分に理解できますけれども、昨今、サイバー攻撃の対象になる企業や大学等が急増していて、いわゆる守りの研究開発がどのようになっているのかと考えました。先ほどの表に「インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発実証・組織的対応推進事業」がありました。これは５０億円という予算額ですが、短期的にものすごく重要な研究アジェンダではないかと考えています。今回、国家的に重要な研究開発ということですけれども、その国家的に重要な研究開発が予算額で定義されていないとするのであれば、国民の安心・安全をしっかり守るための、守りの研究開発も重要になるのではないかと私は思いました。国のアジェンダの扱いとしてはどのようになっているのか、教えていただけないでしょうか。

【藤原企画官】　今回、高市政権になりまして、皆様御案内のとおり「強く豊かな日本」投資枠ということで、各省の予算規模がかなり大がかりになっているところです。そうした中で、先ほども御説明したとおり予算規模を一つの要件として入れています。また、第７期「科学技術・イノベーション基本計画」において１７の重要技術領域を定め、さらにそのうち、ＡＩや量子といった６つを国家戦略技術領域として定めています。今回、３００億円以上については１０件ありますけれども、その中からさらに選定するという中で、この国家戦略技術領域に該当するかどうかを重要視しました。

御指摘のあった「インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発実証・組織的対応推進事業」についてはデジタル・サイバーセキュリティ関連技術として重要技術領域には該当しますが、国家戦略技術領域には該当しないことと、全体の予算規模も踏まえて対象外としたところです。

【宮園会長】　いかがでしょうか。

【染谷委員】　一点だけ質問をさせていただきたいと思います。まず、この４つを選定して評価することについては何ら異存ありません。一方、そもそも新規研究開発案件の全体像を把握するためにということが書かれています。しかし、４つだけでは全体像は把握できないように思いました。４つを重点的に見ることについては何ら反対ではないのですが、そのほかの部分はどのように把握するのかを教えていただきたいと思います。

【藤原企画官】　どのように全体像を把握していくかについては、平成２９年度の評価専門調査会で議論した際、「国費総額２００億円以上」又は「単年度概算要求２０億円以上」を対象にすることとしたところです。

当時の議事録を見てみると、数億円程度のものも含めてはどうかという議論もあったようですが、予算規模の小さいものも含めると、案件名ぐらいの把握であればよいのですけれども、ＣＳＴＩとして中身まで見始めるのはなかなか大変だろうということで、このような形で選定することになりました。

実際、今回は総件数が１９件であり、例年の評価件数が３件程度、場合によってはやらない年もある中で、手広くし過ぎると評価も大変になります。受ける側も、実施する側も大変になるということで、昨今、評価疲れが指摘されていることもあり、今回の４件に絞ったところです。

【染谷委員】　ありがとうございます。私からは以上です。

【宮園会長】　ほか、いかがでしょうか。伊藤議員、お願いいたします。

【伊藤議員】　私は量子技術イノベーション会議の座長も務めているのですけれども、今回のように総務省から①の「量子ネットワークの要素技術検証」が選ばれて、もう一つ、文部科学省から挙がっている「量子の有用性実現に向けた科学技術基盤共創プログラム」が選ばれなかったことについて、私たちはどのように説明し理解すればよろしいのでしょうか。

【藤原企画官】　もともと各省庁が研究開発評価を実施している中で、重複する評価はなるべく避けつつ、ＣＳＴＩとしてはそれらがきちんとなされているかという視点も含めて評価しようというものです。その中で、今回は各省庁の件数がなるべく平準化するように、案件が散らばるように選定したところです。

【伊藤議員】　量子の専門家から見ると、いかにも省庁間のバランスを考えて選ばれていて、それは我々としては、なかなか説明がつかないのです。量子技術イノベーション会議において、どのようにしてこれを説明できるのかということです。結果的には我々も責任を一部担うことになるわけですけれども、今おっしゃったことが、まさに、結局、省庁のバランスを考えて決めている限りは、問題はさらに大きくなっていくのではないかと私は思いましたので、そのような質問をいたしました。

省庁のバランスを重視して全てを決めていたら、それは内容の重視ではなくなってしまいます。そうすると、ＣＳＴＩも必要なくなってしまいます。

【藤原企画官】　御指摘、おっしゃるとおりでございます。

【伊藤議員】　評価専門調査会は省庁間のバランスを考えるところなのか、プロジェクトの内容を見て決めるところなのかという質問にもなっています。

【藤原企画官】　その点については両方の視点があっていいと考えます。今回、事務局としては省庁のバランスをとりましたが、「量子の有用性実現に向けた科学技術基盤共創プログラム」も対象とすべきであるということであれば、追加できるか文部科学省と調整したいと思います。

【伊藤議員】　その辺りは会長にお任せしたいと思います。幾つか専門分野の同じようなところが、一部は選ばれて一部は漏れている。染谷委員の質問と同じようなことを実は私も感じていたところで、さらに質問した次第です。

【宮園会長】　どうもありがとうございます。林委員、お願いいたします。

【林委員】　私からは、個別の案件ではなくて事前評価のやり方に関してのコメントです。

おそらく、各府省は、府省内での予算要求の形成の中で既に行政事業レビューを実施し、あるいは財務省と議論している状態であると思います。ただ、ここに出してくるのであるから、行政事業レビューで実施しているものを超えるような、しっかりとした事前評価、自己評価の議論を持ってきていただきたいと考えます。

資料１の評価の視点には、ざっと、各府省でやっている評価の状況のようなことが書いてありますが、それだけですと、どの程度のものが出てくるのか不安です。行政事業レビューでも求めていますが、ロジックモデルを作ることによって、一体いつまでに、どのようなアウトカムを形成するのかを明確にしていただきたいです。それから、大規模研究開発評価を行う際、今の議論とも絡むかもしれませんが、上位施策との関係や、上位施策から見たと

きに事業群のポートフォリオがどうなっていて、対象としている評価がどこに位置付けられていて、予算的には全体の中でこの事業の予算額はどのような位置付けにあるのかについて、どう自己分析しているのかが、しばしば見えてこないことがあります。

それから、今回は新規要求ではありますが、過去の類似政策、類似施策がどのような効果を及ぼしたと考えており、どのようなやり方で実施したからどううまくいったのか、だから今回も実施するという説明も欲しいと考えています。あるいは海外の類似施策と提案しているものがどのような関係にあるのかの自己評価も欲しいと考えます。

単純に普通の事業群と同じように、今回の事業も府省の中で評価していますという話を超えて、やはりしっかりと見なければいけないので、その辺りを府省のほうには準備するように要請いただければと思います。

【藤原企画官】　今御指摘いただいたように、例えば、いつまでにどのようなアウトカムが出るのかや、上位施策との関係、過去の類似施策がどうだったかといった視点についても各府省に資料として提出いただくようにお願いしたいと思います。

【宮園会長】　ほか、いかがでしょうか。

どうもありがとうございました。

委員の先生方から、大変貴重な御意見、重要な御指摘をいただきました。この件に関して、私と事務局で相談し議論した後、先生方にフィードバックして、どのように対応するかを決めていきたいと思います。

大変重要な御指摘もいただいていますし、今後のことにも非常に重要な御指摘もありましたので、そのような形で進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。議論の内容については皆様に御報告するようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

もし、ほかにないようでしたら、公開議題はここで終了となりますので、一般傍聴をされている方はここで接続を終了いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

（議題（２）及び議題（３）に係る議事録は非公開）

【宮園会長】　特にないようでしたら、本日予定していた議題はこれで全て終了いたしました。最後に、今後の予定などについて事務局から説明をお願いいたします。

【藤原企画官】　事務局でございます。次回の評価専門調査会の日程については別途事務局から御連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

【宮園会長】　以上をもって閉会とさせていただきます。
皆様、どうもありがとうございました。

※　議題（１）における事前評価の対象案件に関し、文部科学省「量子の有用性実現に向けた科学技術基盤共創プログラム」についても、大規模研究開発評価ワーキンググループにおいて取り上げることとなった。

（了）